

平成 21 年 5 月 5 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18606001

研究課題名（和文） 同期多地点共同によるパプアニューギニアの地域調査研究

研究課題名（英文） Study on Multi-sites Synchronous Cooperation for Papua New Guinea

研究代表者

氏名（ローマ字）：吉田 雅巳（YOSHIDA MASAMI）

所属機関・部局・職：千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：80221670

研究成果の概要：本研究では、パプアニューギニアにおける政府開発援助対象地域に対して、テレビを活用した地域啓発活動を行い、その地域改善、教育振興に及ぼす効果を同定した。これまで、明確でなかった地域における貧困の状況を推定し、資料を提供すると共に国際、政府、地域の3つのレベルでの施策実施における連携を試行し、その有効な形を提案した。地域では、本施策により、特に教育振興での積極的な住民自らの創発活動が出現した。

交付額

(金額単位：円)

|      | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|------|-----------|---------|-----------|
| 18年度 | 700,000   | 0       | 700,000   |
| 19年度 | 400,000   | 120,000 | 520,000   |
| 20年度 | 700,000   | 210,000 | 910,000   |
| 年度   |           |         |           |
| 年度   |           |         |           |
| 総計   | 1,800,000 | 330,000 | 2,130,000 |

研究分野：時限

科研費の分科・細目：社会開発と文化

キーワード：国際貢献，衛星通信・放送，社会開発，人材開発

## 1. 研究開始当初の背景

建国僅か 30 年あまりの南太平洋州パプアニューギニア国（以下 PNG）は、近隣諸国に比べ市場経済・産業振興や、基盤となる社会インフラ、産業振興、治安等の整備が遅れている。そして、将来発展の基礎となる人材資源開発も深刻な課題を持つ。これに対して、政府は国家計画の中で地域の人材開発、特に教育の振興を緊急に取り組むべき開発 3 施策の 1 つとして取り上げ、日本などの援助国の支援を積極的に取り入れて力を注いでいる。しかしながら、日本の 1.3 倍の広大な国土には村落間を繋ぐ道路が存在しないために、PNG 国民はコミュニティー単位で孤立し相互の交

流が限られ、社会・文化様式や価値観が多様であり、国民としての帰属意識が低く、行政施策が非常に困難となっている。他国では、細分・高度化され運営される地域の人材資源開発も PNG では、就学、学校教育、職能開発、継続教育、社会教育のすべてが地域の教育事務所に委ねられており、実質上学校教育以外の行政サービスが提供できない状態である。僻地の学校では、他村出身で都市生活経験を持つ教員が教育を担当するが、校下住民は、固有の言語、習慣を使っているために、その教員は同国人でありながら異邦人となり住民と親密な関係を築くのは容易ではない。また、孤軍奮闘の教員の自己職能

再開発は国内の教育の地域差を強調する結果につながっている。加えてPNGには推定800語といわれる膨大な地域語の存在するために、教育用語は英語で、全ての人材開発を外国語で指導・学習しなければならないという実情も地域での人材開発の啓発、振興をより困難にしている。

このようなグローバルな課題に対して、これまでPNG教育省は、国内に唯一存在する全国メディアの民間衛星テレビ局と連携し、地域の学校教育を支援する番組を放送するプロジェクトを3年間試行した。そして、その効果確認の後、本年度後半よりJICAの支援を得て、広く3つの教育困難州の全ての学校にTV受信機器を配置し遠隔で教育支援するプロジェクトを開始した。

## 2. 研究の目的

本研究ではPNG教育省とJICA共同による地域教育振興のための遠隔教育プロジェクトと併行して、地域啓発番組をTV制作放送した。そして、村の唯一の公的機関である学校を校下住民に開放し、地域住民の共同視聴と子どもたちとの日常交流の親密化を促進し、コミュニティ内に生起するマイクロレベルとメゾレベルの間の人材資源に対する認識、意識変容を追跡調査した。同時に、衛星電波を日本で受信することにより、地域（ローカル）、省庁（ナショナル）、援助関係国（グローバル）の多地点で同期した共同研究活動を実施した。この多地点、多層の連携研究活動システムの運営成果は今後の国際協力に初めての手法と事例資料を提供している。そして、本研究では、最終的に地域のコミュニケーションのつながり変化と施策提供システムとを総合的に関連させ描写した分析資料を公開することを目的としている。

## 3. 研究の方法

本研究は3年間をもって実施・完了した。以下に基礎となった工程を示す。

1. 研究スケジュール調整
2. 地域啓発番組の企画・制作（A1）
3. 地域啓発番組の放送（A2）
4. 地域情勢データ、学校統計の作成（B1）
5. 啓発活動前の地域の人材開発観調査（B2）
6. 啓発活動後の地域の人材開発観調査（B3）
7. 啓発番組提供中のモニタリング（C1）
8. 同期・多地点共同地域研究活動システムの評価（C3）
9. 連携研究システムの提案・成果公開（C2）

上記研究活動は、

A：地域啓発番組の企画・制作・放送

B：家庭、コミュニティの人材開発への理解の実態調査

C：多地点、多層の連携研究活動の実施の3分野に区分できる。

## 4. 研究成果

18年度に以下の活動を実施した。

A1：試行的にNHKの教育素材を活用した地域啓発教育番組を制作し放送した。制作言



語は英語を使用した。

啓発番組制作の様子

B1：地域の情勢資料収集を政府統計局、教育省、国際機関のデータを基にして実施した。得られたデータから、本研究の対象の地域の貧困状況を描写するために、データを整理・再配列し推定を行った。その結果、  
－人口の約93%は地域に存在している  
－経済的には富が中央に集中しているわけではない  
－貧困レベルが37.5%存在すること  
－海岸部より山間部の貧困レベルが高いこと(40.1%)  
－貧困のために、特に中等教育への進学率が著しく低いこと(37%)  
が判明した。

B2：意識調査は、教員研修で首都に集まった全国の教員の中から対象地域の教員を選び聞き取り・質問紙調査を行うことにより実施した。その結果、これまで地域で得られる情報に限りがああり(58.3%)、TV利用の情報提供に非常に強い期待がある(64.6%)ことがわかった。

19年度には以下の4点について研究を実施した。

A2：番組の放送

教育省の教育支援番組と本研究の地域啓発番組と内容関連を調整して放送した。制作言語は英語とピジン語を適宜使い分けた。

本研究期間内に開発できた番組は

- 1) 環境課題 (4タイトル)
- 2) ジェンダー (1タイトル)
- 3) 教育と地域発展 (2タイトル)
- 4) 地域文化と歴史 (1タイトル)

である。



啓発番組の一場面（環境課題）

放送中は、生徒の地域啓発番組視聴参加は特に高いということにはなかった（参加者の24%）が、地域への話題の提供では大きな効果が見られた（84%のものが関心を持った）。放送中は、言語や知識、経験の不足を補足する現地学校教員の役割が非常に重要となる。そこで、別に地域啓発活動で主導的役割を果たす、現職教員向けの再教育番組も制作・放送した。ここでは、PNG 教員教育機関との連携で、現地教師教育専門家が講師を担当した。本研究期間内に制作できた番組は

- 1) アセスメントと評価（10タイトル）
- 2) 達成成果の評価と報告（10タイトル）
- 3) リーダーシップと運営（10タイトル）

である。

**C1：啓発番組放送中のモニタリング**  
住民視聴のモニタリングを実施した。現地で担当教員が実施した調査票や観察記録、研究メンバーによる踏査による観察に加え、日本において地域啓発番組を直接衛星遠隔受信しパプアニューギニア教員留学生、教科専門教員が視聴評価した。また、現地に適宜日本から電話やeメールで連絡を取り地域、教育省との連携を図った。



住民の番組視聴の様子

モニター時の住民の意見では、概ね好評な評価（すばらしい29.2%、まあまあ56.3%）を

得た。しかし、教材の提示方法では、ゆっくりとした時間の確保や、キャプションの挿入などさらに工夫が必要である旨現地からの報告があった。

**C2：連携システムの提案**

本研究の番組企画やモニタリングで行っている日本一教育省、日本一地域の研究交流の状態を、より有効に機能させるために、実現可能な情報伝達手段の利用と、連携のあり方について教育省内の委員会と協議した。ここでは、メーリングリストや、WEB ページを活用しての情報の各層を越えた共有が有効であると考えられたが、首都を含めた国内メディアインフラの貧困な状態を考え、現状可能な手段として、電話窓口を設置して対応することとした。

また、調査記録や調査映像のデジタル共有化、整理の具体的な手法について決定した。

**C2：中間成果の報告**

番組制作での工夫・改善策、組織的な啓発手段の実施に関係する得られた知見を学術会議で公開した（発表論文①）。

| connotation elements deployment | connotation elements |                      |                     |                        |                   | benchmarking |          | quality planning |                | weight |                   |                 |                          |
|---------------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------|-------------------|--------------|----------|------------------|----------------|--------|-------------------|-----------------|--------------------------|
|                                 | facilitation skill   | R project management | instructional skill | subject area knowledge | chronotopic skill | importance   | PNG      |                  | planning       |        |                   |                 |                          |
|                                 |                      |                      |                     |                        |                   |              | THAILAND | INDONESIA        | target quality |        | level of grade up | absolute weight | relative outcome quality |
| outcome quality deployment      |                      |                      |                     |                        |                   |              |          |                  |                |        |                   |                 |                          |
| quality 5 teachers              | 0.89                 | 0.79                 | 0.89                | 0.89                   | 0.89              | 0.23         | 1        | 3                | 4              | 3      | 0.688             | 0.25            |                          |
| quality content                 | 1.87                 | 0                    | 3.34                | 6.88                   | 1.87              | 0.56         | 1        | 4                | 5              | 3      | 1.670             | 0.61            |                          |
| R management                    | 0.14                 |                      |                     |                        | 0.04              | 0.02         | 2        | 4                | 3              | 3      | 1.5               | 0.036           | 0.01                     |
| project administration          | 0.08                 |                      | 0.11                |                        | 0.23              | 0.04         | 2        | 4                | 4              | 3      | 1.5               | 0.057           | 0.02                     |
| role of R teachers              | 0.29                 | 0.10                 | 0.19                |                        | 0.04              | 0.06         | 2        | 3                | 2              | 3      | 1.5               | 0.097           | 0.04                     |
| cares in production             | 0.18                 | 0.18                 | 0.18                | 0.70                   | 0.18              | 0.09         | 2        | 4                | 5              | 4      | 2.0               | 0.176           | 0.06                     |
| importance of connotation elem. | 2.92                 | 0.20                 | 6.37                | 7.85                   | 3.06              | 0.44         |          |                  |                |        |                   |                 |                          |
| relative connotation elements   | 0.14                 | 0.01                 | 0.31                | 0.38                   | 0.15              | 0.02         | 1.00     |                  |                |        |                   | 2.723           | 1.00                     |
| PNG                             | 2                    | 1                    | 1                   | 3                      | 1                 |              |          |                  |                |        |                   |                 |                          |
| THAILAND                        | 3                    | 4                    | 4                   | 4                      | 3                 |              |          |                  |                |        |                   |                 |                          |
| INDONESIA                       | 2                    | 3                    | 5                   | 5                      | 5                 |              |          |                  |                |        |                   |                 |                          |
| target quality                  | 3                    | 3                    | 3                   | 3                      | 3                 |              |          |                  |                |        |                   |                 |                          |

**品質機能展開**

ここでは、番組内で活用する素材の質が重要であること。番組制作機能をより高めることなど、いくつかの制作時に優先すべき事項とその程度を明確化できた。

20年度に実施した活動は以下の3点である。

**B3：引き続き地域啓発番組を放送し、その視聴後に確認したコミュニティーの変化を、聞き取りで調査した。** TV 番組よりの情報提供への理解は、概ね好評(67.3%)であったが、今後、地域での関連資料の充実が課題であることが要望として強く求められた。質問紙調査でも49.1%の住民が学校の設備に満足していなかった。対策として学校図書室の資料の整備が提案された。地域の退学率の変化や退学／進級生徒の家庭の意見の相違、クランの教育への認識の変化を見据えながら、地域コミュニティーの連鎖の中に起こった自己の行動選択変容を含んだ、人材資源開発に対する

認識、意識の変化を調査記録した。対象地域の生徒の教育定着では、統計的に有意ではなかったが、着実な向上が見られ、教育と地域社会の発展とのつながりが地域で理解され、就学、学習継続のための地域発信のいくつかの活動が生まれた。特に教育が子どもの将来に大きく貢献することが広く理解された(93%)。また、住民の就学に対する男女生徒への理解の差が減ったことも注目できる(男子:75%, 女子:73.2%)。しかし、子どもに学業より就労をさせようとする意識が、特に女子に対して多かったのは、継続した取り組みが必要である(男子12.5%, 女子19.6%)。施策による誘因的された変化に留まらず、自発的行動が見られたのも注目すべき結果である。例えば島嶼部の調査地域では、視聴後の村民の意見交換をきっかけに地域語とマレー語間の多くの類似点を発見し、村のルーツとマレー人の南太平洋への展開との関連を解明し地域文化の再発見に取り組みだした。また、教育振興では就学率の向上や、中等教育への進学率向上のための住民活動が見られた。これらの詳細な資料、結果は教育省に報告書として提出すると同時に、JICA 報告書にもまとめられている。

C3: 番組素材の効果と、意識変容の実態との関連については、海外の専門家とも連携を図り、多視点な意見を集約しまとめた。住民の番組に対する興味は高かったものの、番組の趣旨を適切に理解し、自発的活動に結びつけるためには、さらなる工夫が必要であることが判明した。特に、多文化の当該国での番組制作では、既存情報、経験が異なる地域でも理解が可能な、より丁寧な内容文脈の説明準備が必要であることなどが指摘された。創発活動としては

- 1) 図書、資料の整備
- 2) 専門家の地域訪問
- 3) 村民での学習会
- 4) 個別の地域調査
- 5) 他者への啓発活動
- 6) 村の将来計画への取り入れ
- 7) 学校への要請

など、個別、集団さまざまな地域活動が観察できた。また、多くは継続的な取り組みが予定されていたが、今後も適宜働きかけが行われないと、活動の趣旨が地域の他の事情に影響され変質しやすい傾向にあることがわかった。

C2: インターナショナル、ナショナル、ローカルのレベル間に発生した活動の特性や、それが及ぼす各レベルでの意義理解の様子についてまとめ、地域層間の親密な連携を考慮した。これまでの試行を基に、今後継続的に活用可能な啓発プログラム開発から提供までの手順を決定した。さらには、教育省の要請で、地域啓発で主導的役割を果たす、地域

教員対象番組の有効な企画方法が必要となった。そこで階層分析法を活用した分析を実施した(表参照)。これは、異種専門家が介在しても利用可能な協議取りまとめ手法を使ったコースの企画方法で、詳細を学術報告として国際学術会議で報告・刊行した(発表論文②)。

表 番組企画方略の優先度

| Criteria      | Priorities |
|---------------|------------|
| tools         | 0.033      |
| materials     | 0.099      |
| human capital | 0.296      |
| potentiality  | 0.506      |
| feasibility   | 0.067      |
| C.I           | 0.092      |

表は、地域教員へのコース提供の場合の採用すべきストラテジーの階層分析法による分析結果で、番組情報の実用性より、潜在的貢献可能性を考慮したコース企画が必要なこと(50.6%)を示している。

#### まとめ

本研究では、活動を通してこれまで得られなかった貧困、就学、教育への理解などの地域状況データを収集、整理することができた。これは今後パプアニューギニア地域開発を研究に貴重な資料を提供するものである。また、データは地域改善の指標として啓発活動で活用することができた。

ローカル、ナショナル、グローバルに連携したテレビ番組を活用した地域啓発活動の結果、住民の自主的活動を創発することができた。加えて、ここで試行された連携手法を学術報告として公開することができた。

さらには、地域啓発に効果的に貢献可能な異なる専門家が共同した企画、制作のための方略を開発し、学術報告として公開できた。なお、本研究後も地域啓発活動は教育省が継続して地域振興活動を継続している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① Yoshida, M., Comprehensive Study on Quality Improvement of Distance Education Project in Papua New Guinea, 7th Hawaii International Conference on Education, Proceedings pp. 3929-3936, 2009, 査読有

② Yoshida, M., Selecting an In-Service Course Strategy by Analytic Hierarchy Process, Paper Presented at Eighth IASTED International Conference on Web-based Education. WBE 2009,

Proceedings 644-068, 2009, 査読有

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 雅巳 (YOSHIDA MASAMI), 千葉大学教育学部 教授

研究者番号：80221670

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者

瀬田智恵子 (SETA CHIEKO), お茶の水女子大学・サイエンス&エディケーションセンター・研究協力員

研究者番号：70280542